

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり 東ユニット		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-6		
自己評価作成日	平成31年1月21日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail%2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2295400077-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

晩年の住いを住み慣れた自宅から「あかり」に移された入居者様の、新たな「我が家」として、こんな所に力を入れています。
 ①人的環境の整備・・・お一人お一人への自然な寄り添いで、安心感のある毎日を継続しています。又、認知症や看取りケアスタッフの育成を図っています。
 ②住環境の整備・・・平屋建てのため、建物内の移動がスムーズです。見守りと介助の強化で拘束感の解消に努めています。
 ③地域環境の整備・・・地域住民、保育園、小中学校との日頃の交流があり、活気のある事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「灯りとなって～」との理念は、介護に真摯に向き合う人の琴線に触れるものだけに、「ホームページを見て理念がいいと思って…」と入職を決めた職員もいて、理念は自慢の一つです。また暴言などの症状をみせる利用者を静観する選択もある中、「本人の気分が高揚するように皆に関わる日を作ったかどうか」と言った発言を見るにつけ、管理者側も理念浸透への手ごたえを感じています。また本年法改正のあった身体拘束適正化については、ベッドにソファをつけてクイーンサイズとして頻回な寝返りに対応した例があり、本人が入院した際には病院も「その方法はいいね」ということで採用されていて、事業所の常の工夫が顕著に現れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員入社時に書面及び口頭にて伝えて共有している。 毎月の研修でも行っている。 今回採用時に理念を見て入職された職員もおり、理念を意識した姿勢や言動が見られている。	入職時に理念を丁寧に説明しています。また認知症や看取り、身体拘束排除等の勉強会が毎月実施され、その内容は随所で理念に符号するため、職員の中に積み重ねられていて、管理者も理念の浸透を自負しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	町内会に所属し会費納入、回覧板、年2回の防災訓練、公会堂のイベント等に参加している。 施設のイベントのお知らせや、近所の商店への買い物などを日常的に行っている。	法人が地域の人との憩いの場として『ゆったりカフェ』を毎日曜に開催していて、演奏会やマジックショーなど利用者が楽しめるメニューにはグループホームの利用者も加わっています。また今年度は近所の有志が餅つきを披露くださり、利用者も心躍る1日を過ごしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症やターミナルケア、介護保険についての説明・講座の依頼には積極的に応じている。 介護相談には常に応じている。 認知症カフェの開催場所として利用して頂いて、利用者様も参加されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域自治会、行政、医師の意見を参考に、改善できる所は行うように努めている。 連携して下さる医師の出席で最近の状況や意見や提案を頂き参考にしている。	運営推進会議では事故報告も真摯におこなっています。一般企業に勤務する家族からは、危機管理やリスク軽減について具体的な提案が挙がり、また医師2名の出席では入れ歯やインプラント、感染症のプチ講座に至るなど、専門的な助言が豊富な場と成っています。	運営推進会議の内容に迷いもあるとのことですので、一度家族にアンケートをとったり、参加メンバーとの意見交換の機会をつくると、良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知調査や更新申請時にやり取りをしたり、それ以外にも協力関係を築くようにしている。 運営推進会議には毎回出席して頂いている。 介護相談員の訪問があり、書面での報告の結果も受けている。	市役所長寿介護課からは夜間開催にも関わらず、運営推進会議へ足を運んでもらえ、介護相談員の定期訪問もあります。また市役所主催の研修会には、栄養や嚥下、糖尿病、虐待排除などのプログラムへ積極的に各担当者が参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束ゼロで日々のケアを行っている。 書面や、毎月10日の研修で拘束についての勉強を行っている。 又、事故報告からも問題点を見つけ職員達による話し合いを重ね、具体的な対策を考えるように努めている。	本年の法改正に基づき、身体拘束適正化に係る職員の集まりが毎月あり、主に知識的な内容を以って推進しています。ただし指針における定めについて足りない面があるため、速やかに是正して年度内には軌道修正ができる予定としています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部の研修を通じ学ぶ機会をつくっている。 ケアにあたる際も、一人で完結しないで、職員が関わりを常に持つように行っている。 職員のストレスチェックを面談を通じ行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修にて理解を深めている。また、実際に「成年後継人制度」を利用されている方もあるため、常に後見人への報告を折々に行い、本人の希望や状態を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理解頂くよう説明を行い、署名を頂いている。 契約事項の変更時、運営推進会議などで、市の方からの説明も頂き、理解されている。また、契約時には気づかなかった点に関して、再度理解して頂くように説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者への面会時、また受診同行をした時などに家族様より寄せられた意見、要望、不安、悩みなどをお聞きし、運営に反映している。 運営会議でも家族にお知らせしご意見を伺うようにしている。	家族から「新しい職員がわからない」との意見があり、ユニット内にも掲示するとともに、『あかり通信』にある職員紹介のコーナーも写真入りとし、親しみが湧くものとなっています。管理者が家族の受診に同行することも多く、待合室を相互理解の場として活かしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者会議(管理者・ユニットリーダー) ・ユニット会議 ・個別面談 ・スタッフ懇親会 等活用 上記他、個人的に意見を聞いている。	管理者が書面上のチェックをしたうえで、代表者の個人面談をおこなっています(年2回)。また職員は意見を書面化して臨むことから、会議の場で普段考えていることを率直に述べています。費用の9割ほどを法人が負担するスタッフ懇親会では無礼講の域を超えた進言もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	税理士、労務士の関与による助言等により適切な内部規定を作成し整備するように図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や事業所で勤める研修に参加してもらっている。 定期的な内部規定を作成し整備するように図っている。 来期は実務者研修や新人研修などを組み込んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設との交流で、制度や研修、ケアについての情報交換に努めている。 地域密着型サービスグループの懇親会を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に早く慣れて頂く為に、ケアプランの目標に沿ったケアを個別に丁寧に行い、スタッフや利用者との関係に努めている。 家族に昔のエピソードを聴くことにより、安心して頂くように声かけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を丁寧に行い、満足いく聞き取りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアと連絡をとり、入居前に情報を得るようにしている。(事前面談) 本人、家族との面談で丁寧に関わり、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活者としての視点で、その方の食事作りや洗濯量等を一緒に行うことで、共同生活の一員として過ごしてもらえるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様の関係性を理解しながら、体調不良時や受診時に、家族様と連絡を密に取りあっている。 面会時間の中での訪問で、本人様、家族様、職員が一緒に会話をすることにより、提案、意見、希望を確認することができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されても以前の友人や近所の方の面会に来て下さる方を拒まず受け入れている。 (家族様許可を事前あり) 家宅の近所の老人会などにも参加している。 DSとの利用者との活動もあり、同じ町内だった方との交流をしている。	タオルや新聞紙が届いたり、ぼた餅を大量に作って持ち込んでくださる家族もいます。「看取りか」という状態から何度も復帰している利用者もおり、家族もその度に入出りが多いこともあって、ほかの利用者とも親しげに話していて、一つの家族のようです。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションのために、レクリエーションや生活の作業を職員も一緒に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居先への情報提供を行い支援している。 亡くなった方の家族にもイベントの参加への呼びかけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議などを活用し本人の一言一言を傾聴し実現化している。 個別のケアとしての外出を主としている。 利用者様本人が自らの思いを訴えに事務所に来ることが多い。	晩酌をする利用者とはスーパーマーケットに買い出しにでかけ、定番銘柄を中心に本人が「これがいかな」と選んでいたり、包丁を使って果物を皆に振舞う人、洗濯物のたたみを楽しみとする人、それぞれの想いが実現するよう介護計画書に位置づけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ細やかな聞き取りでアセスメントを行う事で把握に努めている。 家族、知人の面会時などには、聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態の把握は目標に沿って行っている。 有する力の維持と改善についてカンファレンス等で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人から利用者様のケアの課題点を各ユニットリーダーより通じて集約し、ユニット会議内のカンファレンスにて確認を行い、介護計画書を作成し、内容を共有している。 家族にも、聞き取りを行っている。	職員間で「宿題」とも呼ばれている『利用者個々におけるケアの課題点』は、カンファレンス開催までに準備されています。各職員が9枚(人)の課題を挙げると、着眼点が異なるケースも間々あり、そこから更に深い発見につながることもあり、職員の学びが進んでいます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の申し送り、カンファレンスの実施で職員間の情報共有を深めている。 業務ノートなどの活用もしている。 現場からの報告を密に行い計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、工作、行事、編み物、習字、デイサービスへの訪問等、工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(音楽、マジック、ドッグセラピー、体操、傾聴等)の柔軟な受け入れで、潤いのある生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師2名非常勤で配属している。島田市の医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。基本は家族様が受診だが、事情によって受診の代行は行っている。	全員が家族の付き添いで在宅の頃のかかりつけ医を継続していますが、本年から車いす対応の車両を1台購入したことも追い風となり必要に応じて同行や代行も円滑です。また医療機関と連携を図るために連絡票を設けている島田市では、医師から直接医療情報が届いています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日9:00～13:00まで看護師に医療的処置の指導を得られる体制を作っている。医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。記録内にも、看護記録の記載をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供票を用いて、病院のMSWを通じて支援できるようにしている。受診時には連絡票を用いて連絡を取っている。病院主催の研修などに積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	連絡票や主治医との面談を行い方針を確認し、家族、施設、医療が協力して行っている。今年度は1名の方の看取りを行っている。又、他施設への転院の援助も2名行った。	従来のかかりつけ医を続けているため、重度化した場合には速やかに医師に『連絡してよい時間や関わってくださる範囲の確認』をおこなっています。看取りには「独りで逝かせない」とのスローガンを持っていて、場合によっては代表者が泊り込むこともあります。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染・防災委員が主となり、応急手当マニュアルを作り定期的に訓練をし、いつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1度の避難訓練を行っている。地域の避難訓練にも参加している。	9月と12月は総合防災訓練を併設事業所と合同で実施するほか、防災紙芝居や応急手当、備蓄の試食会もおこなっています。試食では「パン不味いね」といった利用者の声も反映させて、今後の購入に活かしています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生活履歴を把握し、適切な言葉かけを行っている。(方言を含む) その方のNGワードなど模索して、日々を穏やかに過ごせるように努めている。	毎月職員が作成する『利用者個々におけるケアの課題点』には「いつもごまかされている」という訴えがあるといったことや、「杖より自宅にある押し車のほうがいい」と言われた等々あり、記載された内容には受容と尊重が滲んでいます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず本人様の希望、または、選択ができる様に聞いてから実施している。 本人からの希望も、職員に伝わりやすい様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に寄り添う人として、その方に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活場面に合わせて、一緒に服選びを行っている。 起床時の整容、都度身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材などを見せ、どのような味付けが良いか話をしたり、食べたい物を聞いたりしてメニューを決めている。誕生日の時などはその方の好きなメニューにしている。 野菜の皮むきなどを一緒に行うことで、食事を楽しんで頂けている。 検食簿も活用している。	調理専門の職員が入ったことで、更に献立がバリエーションに富んでいます。検食簿を見直すとともに利用者の感想を聞き取るようにして、また夕食も検食対象に加え、昨年度の外部評価における目標を達成させています。イベント食にも取り組み、50-60cmもするロールケーキを購入して分け合った日もあります。	食卓を朗らかに囲むためにも、本人の好き嫌いの取り扱いについて、改めて検討することを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重増加びある方には量を減らしたり、空腹の訴えをする方には、少量を多めにした個々の状態に合わせ提供している。 水分摂取では活動後には提供をし本人の好まれるものを提供している。 職員と一緒に水分摂取を行うことで、水分量が以前よりとれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず口腔ケアを行い、行えない方には仕上げ磨きチェックを行っている。 年に一度、歯科検診を歯科医の協力を得て施設にて行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレ誘導を行っている。(成功例に基づき調整) 日々の生活を笑って過ごしていくためにも、パット使用も有りとし、その方の介助に努めている。	本来はオムツとなる状態ですが、時々便意もあるため2人介助で便座に座ることができている人もいます。トイレだと沢山でて便秘解消にも叶っていて、それも励みに職員が尽力しています。また「やや高い」としてトイレには手作りの踏み台も備わっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には、ヨーグルトなどを提供し、食物繊維のメニューを取り入れている。 トイレでの排泄がスムーズに行くように、足台を使うなどをし、自分で腹圧が掛けられるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態や要望に合わせて、声かけをし入浴、シャワー浴を行っている。 就寝前にはスムーズな睡眠が促せるよう、足浴を実施。 基本は週2回だが、要望のある方は週3以上の入浴をしている。	週2回を清潔の目安としつつ、希望があれば応える態勢にあります。入浴そのものを夕方から夜間に実施することは職員配置から難しく、それでも「安眠を」との考えを以って就寝前の足浴を習慣としています。肌が敏感な人もいるため、柚子湯は足浴で取入れています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は休息の時間を設けている。 活動後に疲れた様子がある時は休息して頂いている。 個々に応じた時間に就寝して頂いている。 今までの生活履歴から、かい巻を使用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	下剤は便の状態により調整している。 薬の処方内容をまとめたファイルを個別に作っている。 薬の間違いがないように、内服時間別に仕切りを使用して薬箱の保管をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の出来る事、得意な事等を役割りとして、毎日行ってもらっている。 ごみ箱づくり、新聞畳、雑巾縫い、窓閉め等々。 お酒の提供もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	季節や体調に応じて、ドライブなどしている。 家族が本人の希望を把握して外出することもしている。 今年は、花火、イルミネーションなど夜間のドライブも実施した。	御前崎のなぶら市場、藤枝のイルミネーション、大井川の花火大会といった毎月1回程度のドライブ企画が続いています。本年度は夜間ドライブにもチャレンジ、刺激が大きかったのか居眠りする人もなく、車中も会話が弾み、生き生きとした表情をひきだすことに成功しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際は、個別のお金を持って好きなものを購入したり、自分で支払いをしていただいている。 自分で持っていたい方については、トラブルにならない程度に自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた手紙は本人に渡し、読めない場合はこちらで読むこともある。 宛名書きの代筆をするなど、手紙を出す機会を提供している。 電話も事務所に来られ自らが電話をしている。 職員からの手紙に、返事を書く様子もある。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、フロア、浴室、トイレ等の環境整備を行って、清潔で明るい空間で過ごして頂くように心がけている。 季節がわかるよう、季節の壁画作りや季節の花を飾ったりしている。	遅番が夕方に掃き掃除をし、夜勤者がモップや水拭きをしています。日中は手すりなどコンタクトポイントを拭いて廻り、全体に5Sが行き届き、清潔です。次亜鉛素水を加湿器にも加え、都度噴霧して拭き掃除に多様しており、本年も未だ感染症とは無縁です。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内のサービスを訪問したり、施設全体を自分の場所として自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していたタンスや椅子、家族の写真を置いたりして、なじみの物に囲まれ安心して過ごして頂いている。 表札は自らの手描きをして、飾り付けをしている。	折り紙や一筆書き、クラフト作品がどの部屋にも飾られ、居室前には時節の鬼が笑っていて、普段アクティビティを豊富におこなっていることが伝わります。また家族の来訪も多く、家族が居室を出たり入ったりと自宅のように振舞う様子も視認しました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や壁面に手摺を設けたり、トイレ使用时には足台を用意し、各自に合った高さの調整を図り、自立につなげるよう図っている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2295400077		
法人名	あかり株式会社		
事業所名	グループホームあかり 西ユニット		
所在地	静岡県島田市宮川町2349-6		
自己評価作成日	平成31年1月21日	評価結果市町村受理日	平成31年2月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&JigyosyoCd=2295400077-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室		
所在地	静岡県葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A		
訪問調査日	平成31年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

晩年の住いを住み慣れた自宅から「あかり」に移された入居者様の、新たな「我が家」として、こんな所に力を入れています。
 ①人的環境の整備・・・お一人お一人への自然な寄り添いで、安心感のある毎日を継続しています。又、認知症や看取りケアスタッフの育成を図っています。
 ②住環境の整備・・・平屋建てのため、建物内の移動がスムーズです。見守りと介助の強化で拘束感の解消に努めています。
 ③地域環境の整備・・・地域住民、保育園、小中学校との日頃の交流があり、活気のある事業所です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「灯りとなって～」との理念は、介護に真摯に向き合う人の琴線に触れるものだけに、「ホームページを見て理念がいいと思って…」と入職を決めた職員もいて、理念は自慢の一つです。また暴言などの症状をみせる利用者を静観する選択もある中、「本人の気分が高揚するように皆に関わる日を作ったかどうか」と言った発言を見るにつけ、管理者側も理念浸透への手ごたえを感じています。また本年法改正のあった身体拘束適正化については、ベッドにソファをつけてクイーンサイズとして頻回な寝返りに対応した例があり、本人が入院した際には病院も「その方法はいいね」ということで採用されていて、事業所の常の工夫が顕著に現れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員入社時に書面及び口頭にて伝えて共有している。 毎月の研修でも行っている。 今回採用時に理念を見て入職された職員もおり、理念を意識した姿勢や言動が見られている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属し会費納入、回覧板、年2回の防災訓練、公会堂のイベント等に参加している。 施設のイベントのお知らせや、近所の商店への買い物などを日常的に行っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症やターミナルケア、介護保険についての説明・講座の依頼には積極的に応じている。 介護相談には常に応じている。 認知症カフェの開催場所として利用して頂いて、利用者様も参加されている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族、地域自治会、行政、医師の意見を参考に、改善できる所は行うように努めている。 連携して下さる医師の出席で最近の状況や意見や提案を頂き参考にしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	認知調査や更新申請時にやり取をしたり、それ以外にも協力関係を築くようにしている。 運営推進会議には毎回出席して頂いている。 介護相談員の訪問があり、書面での報告の結果も受けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的に拘束ゼロで日々のケアを行っている。 書面や、毎月10日の研修で拘束についての勉強を行っている。 又、事故報告からも問題点を見つけ職員達による話し合いを重ね、具体的な対策を考えるように努めている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部、内部の研修を通じ学ぶ機会をつくっている。 ケアにあたる際も、一人で完結しないで、職員が関わりを常に持つように行っている。 職員のストレスチェックを面談を通じ行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修にて理解を深めている。 また、実際に「成年後継人制度」を利用されている方もあるため、常に後見人への報告を折々に行い、本人の希望や状態を伝えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理解頂くよう説明を行い、署名を頂いている。 契約事項の変更時、運営推進会議などで、市の方からの説明も頂き、理解されている。 また、契約時には気づかなかった点に関して、再度理解して頂くように説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者への面会時、また受診同行をした時などに家族様より寄せられた意見、要望、不安、悩みなどをお聞きし、運営に反映している。 運営会議でも家族にお知らせしご意見を伺うようにしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・代表者会議(管理者・ユニットリーダー) ・ユニット会議 ・個別面談 ・スタッフ懇親会 等活用 上記他、個人的に意見を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	税理士、労務士の関与による助言等により適切な内部規定を作成し整備するようになっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修や事業所で勤める研修に参加してもらっている。 定期的な内部規定を作成し整備するようになっている。 来期は実務者研修や新人研修などを組み込んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の施設との交流で、制度や研修、ケアについての情報交換に努めている。 地域密着型サービスグループの懇親会を行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境に早く慣れて頂く為に、ケアプランの目標に沿ったケアを個別に丁寧に行い、スタッフや利用者との関係に努めている。 家族に昔のエピソードを聴くことにより、安心して頂くように声かけを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談を丁寧に行い、満足いく聞き取りを心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅のケアと連絡をとり、入居前に情報を得るようにしている。(事前面談) 本人、家族との面談で丁寧に関わり、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活者としての視点で、その方の食事作りや洗濯量等を一緒に行うことで、共同生活の一員として過ごしてもらえるように工夫している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様と家族様の関係性を理解しながら、体調不良時や受診時に、家族様と連絡を密に取りあっている。 面会時間の中での訪問で、本人様、家族様、職員が一緒に会話をすることにより、提案、意見、希望を確認することができている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されても以前の友人や近所の方の面会に来て下さる方を拒まず受け入れている。 (家族様許可を事前あり) 自宅の近所の老人会などにも参加している。 DSとの利用者との活動もあり、同じ町内だった方との交流をしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士のコミュニケーションのために、レクリエーションや生活の作業を職員も一緒に行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や転居先への情報提供を行い支援している。 亡くなった方の家族にもイベントの参加への呼びかけを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ユニット会議などを活用し本人の一言一言を傾聴し実現化している。 個別のケアとしての外出を主としている。 利用者様本人が自らの思いを訴えに事務所に来ることが多い。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	出来るだけ細やかな聞き取りでアセスメントを行う事で把握に努めている。 家族、知人の面会時などには、聞き取りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方、心身状態の把握は目標に沿って行っている。 有する力の維持と改善についてカンファレンス等で把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員一人一人から利用者様のケアの課題点を各ユニットリーダーより通じて集約し、ユニット会議内のカンファレンスにて確認を行い、介護計画書を作成し、内容を共有している。 家族にも、聞き取りを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の申し送り、カンファレンスの実施で職員間の情報共有を深めている。 業務ノートなどの活用もしている。 現場からの報告を密に行い計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	外出、工作、行事、編み物、習字、デイサービスへの訪問等、工夫している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティア(音楽、マジック、ドッグセラピー、体操、傾聴等)の柔軟な受け入れで、潤いのある生活を目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師2名非常勤で配属している。 島田市の医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。 基本は家族様が受診だが、事情によって受診の代行は行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	平日9:00～13:00まで看護師に医療的処置の指導を得られる体制を作っている。 医療機関との関係も連絡票を用いて連携を図っている。 記録内にも、看護記録の記載をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供票を用いて、病院のMSWを通じて支援できるようにしている。 受診時には連絡票を用いて連絡を取っている。 病院主催の研修などに積極的に参加している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	連絡票や主治医との面談を行い方針を確認し、家族、施設、医療が協力して行っている。 今年度は1名の方の看取りを行っている。 又、他施設への転院の援助も2名行った。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	感染・防災委員が主となり、応急手当マニュアルを作り定期的に訓練をし、いつでも対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1度の避難訓練を行っている。 地域の避難訓練にも参加している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その方の生活履歴を把握し、適切な言葉かけを行っている。(方言を含む) その方のNGワードなど模索して、日々を穏やかに過ごせるように努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	必ず本人様の希望、または、選択ができる様に聞いてから実施している。 本人からの希望も、職員に伝わりやすい様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に寄り添う人として、その方に合わせている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	生活場面に合わせて、一緒に服選びを行っている。 起床時の整容、都度身だしなみを整えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材などを見せ、どのような味付けが良いか話をしたり、食べたい物を聞いたりしてメニューを決めている。誕生日の時などはその方の好きなメニューにしている。 野菜の皮むきなどを一緒に行うことで、食事を楽しんで頂けている。 検査簿も活用している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	検査簿も活用している。 体重増加がある方には量を減らしたり、空腹の訴えをする方には、少し量を多めにした個々の状態に合わせ提供している。 水分摂取では活動後には提供をし本人の好まれるものを提供している。 職員と一緒に水分摂取を行うことで、水分量が以前よりとれている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後には必ず口腔ケアを行い、行えない方には仕上げ磨きチェックを行っている。 年に一度、歯科検診を歯科医の協力を得て施設にて行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間を見ながらトイレ誘導を行っている。(成功例に基づき調整) 日々の生活を笑って過ごしていくためにも、パット使用も有りとし、その方の介助に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食時には、ヨーグルトなどを提供し、食物繊維のメニューを取り入れている。 トイレでの排泄がスムーズに行くように、足台を使うなどをし、自分で腹圧が掛けられるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の状態や要望に合わせて、声かけをし入浴、シャワー浴を行っている。 就寝前にはスムーズな睡眠が促せるよう、足浴を実施。 基本は週2回だが、要望のある方は週3以上の入浴をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食後は休息の時間を設けている。 活動後に疲れた様子がある時は休息して頂いている。 個々に応じた時間に就寝して頂いている。 今までの生活履歴から、かい巻を使用している方もいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	下剤は便の状態により調整している。 薬の処方内容をまとめたファイルを個別に作っている。 薬の間違えがないように、内服時間別に仕切りを使用して薬箱の保管をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の出来る事、得意な事等を役割りとして、毎日行ってもらっている。 ごみ箱づくり、新聞畳、雑巾縫い、窓閉め等々。 お酒の提供もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や体調に応じて、ドライブなどしている。 家族が本人の希望を把握して外出することもしている。 今年は、花火、イルミネーションなど夜間のドライブも実施した。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出した際は、個別のお金を持って好きなものを購入したり、自分で支払いをしていただいている。 自分で持っていたい方については、トラブルにならない程度に自己管理して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた手紙は本人に渡し、読めない場合はこちらで読むこともある。 宛名書きの代筆をするなど、手紙を出す機会を提供している。 電話も事務所に来られ自らが電話をしている。 職員からの手紙に返事を書く様子をみる		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室、フロア、浴室、トイレ等の環境整備を行って、清潔で明るい空間で過ごして頂くように心がけている。 季節がわかるよう、季節の壁画作りや季節の花を飾ったりしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	館内のディサーブを訪問したり、施設全体を自分の場所として自由に行き来している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使用していたタンスや椅子、家族の写真を置いたりして、なじみの物に囲まれ安心して過ごして頂いている。 表札は自らの手描きをして、飾り付けをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や壁面に手摺を設けたり、トイレ使用时には足台を用意し、各自に合った高さの調整を図り、自立につなげるよう図っている。		